

同慶の至りにて供奉官の如きも斯迄に豫定に差違を來さざることは實に不思議なる事との話さへありたる程にて本校の爲めに祝着の儀にて厚く諸員の熱誠を感謝する次第なり。

⑥ 『南都七大寺大鏡』

『法隆寺大鏡』（第二卷59頁参照）の刊行が成功裏に完結するや、諸方から諸大寺大鏡刊行の要請が起つたため、本校は大正九年七月に『南都七大寺大鏡』の刊行を決定し、再び白石村治に編集を依頼した。翌十年七月、第一輯刊行、昭和四年二月、第七十六輯、補遺一輯の刊行をもって完結した。その後、同七年六月に至り、既刊の大鏡を整理したものが『南都十大寺大鏡』（全二十五卷）として刊行された。

⑦ 関野聖雲の起用と畑正吉の教授昇格

大正十年三月十七日、関野聖雲（本名金太郎）が彫刻科助教教授に任命され、高村光雲のもとで木彫実習の指導にあたることになった。聖雲の制作歴は採用時に提出された左記の履歴書に明らかである。

履歴書

本籍 神奈川縣愛甲郡小鮎村上古沢八十番地ニ於テ生ル

現住地 東京府北豊島郡王子町字王子千五十番地

戸主 平民 関野金太郎 號聖雲

明治二十年五月二日生

學業

明治三十八年十月 高村光雲氏ニ入門

明治三十九年四月 東京美術學校木彫選科入學 同四十四年三月

廿九日卒業 在學中ノ製作木彫白拍子同校ニ買上ケラル

明治四十四年 故林美雲氏ノ依頼ヲ受ケ京都府高雄山神護寺及ヒ

滋賀縣三井寺ニ出張國宝貳点ヲ摸寫ス

大正二年五月一日 第三回東京勸業展覽ニ於テ技藝褒状ヲ受ケ宮

内省御用品トナル

同二年九月二十五日 第二十七回彫刻競技会ニ於テ銅賞牌及ヒ銀

賞牌ヲ受ク

大正三年三月廿日 東京大正博覽會美術館ニ出品入選ス

同五年九月十五日 第二十九回彫刻競技会ニ於テ銀賞牌ヲ受ク

同六年九月二日 第三十回記念彫刻競技会ニ於テ委員及ヒ審査員

ヲ依頼サル 同会ニ於テ銀賞牌ヲ受ケ宮内省御用品トナル

同九年五月 日本美術協會第二部委員及ヒ第六十二回美術展覽會

委員並ニ審査員ヲ依頼サル

文部省美術展覽會ニ彫刻出品 第九回（大正四年）ヨリ同第十二

回マテ四回入選ス

同八年十月 帝國美術院第一回美術展覽會ニ出品入選ス

同九年十月 同第二回美術展覽會ニ於テ特選ヲ受ク

右之通相違無之候也

大正十年三月

右 関野金太郎 印

（大正十年職員ニ関スル書類 庶務）